

高橋 晋也 (福島/115期)

トラック短距離・強化指定選手「B」に指定されているスーパールーキー。まだS級の経験は浅いが、すでに2回のVを3連勝で飾っていて、G3初参戦の1月平記念は決勝進出。初のビッグレースで大暴れか。



岩本 俊介 (千葉/94期)

自慢のスピードに磨きがかかり、今年はハイペースで勝ち星をゲットしている。全日本選抜では一次予選、二次予選を連勝するなど、3月玉野記念まで13勝の荒稼ぎ。11年共同杯以来のビッグ優参もありそうだ。



守澤 太志 (秋田/96期)

今年は素晴らしい伸びを披露していて、早くも2Vをゲット。記念開催では1月大宮、3月松山で決勝に乗っている。しっかりした目標がある時はもとより、目標不在の時でも突っ込みには注意したい。

最終日 (3/29) 9R



GIRLS KEIRIN コレクション 2020

福井ステージ

児玉碧衣が頂上決戦を制圧



児玉碧衣

19年7月〜12月の選考期間の競走得点トップ7による頂上決戦。女王・児玉碧衣が今年最初のコレクションを制する。グランプリを勝った時は20年全勝宣言も飛び出したが、1月岐阜でのコレクションントライアル決勝でまさかの7着。だが、これは負けられない気持ちが強くなりすぎたプレッシャーによるもので、状態に問題ないのは、その一戦以外に今年は全く負けていない事からも明白。5月のコレクションに出られなくなった分もここは気合を入れて走る。タイムリミット逃さぬ巻き返し策でライバルを一蹴しよう。

その岐阜で児玉を破った高木真備の勢いが止まらない。今年7場所19勝、2着2回。強烈ダッシュで繰り出す自力攻撃の破壊力は増す一方だ。自分のやりたいレースを確立させて自信を持って攻め切っており、児玉より前の位置からレースを進められれば好勝負も。レース巧者の石井貴子、男子並みの快速を誇る梅川風子の逆転も十分。石井は2年連続グランプリを児玉の準Vに終わっており、打倒児玉に燃える。昨年はガールズケイリンフェスティバルを含めて14V、今年もここまで3Vと第一人者らしい活躍ぶり。先行から、好位を奪っての差し勝負まで幅広い攻め口でVを目指す。自力攻撃の破壊力を評価すれば、梅川を児玉の最大のライバルとみてもおかしくない。2角まくりで石井、長澤彩を飲み込んだ1月静岡でのコレクションントライアルを始め、今年は6戦5V、準V1回と隙を見せていない。一撃を決めてくるケースも。

さらに長澤彩、鈴木美教、尾崎睦まで横一線の戦績で展開次第で浮上があっという間。長澤は今年3Vと順調そのもの。石井と並ぶオーラウンダーで、このメンバーなら主導権を握って勝負することも考えられそう。鈴木も昨年11月平の完全Vから勢いが加速しており、5Vに、準Vが3回と決勝で全連を外していない。やはり攻めは多彩で、組み立てが奏功なら面白い。尾崎も2月小倉で児玉の準V、同月玉野では高木を破って完全優勝するなど悪くない近況だ。しっかり後位を取って仕掛けられるかだろう。